

愛知東邦大学 シラバス

開講年度 (Year)	2024年度	開講期 (Semester)	前期
授業科目名 (Course name)	心理学実験 I		
担当者 (Instructors)	松尾 香弥子	配当年次 (Dividend year)	2
単位数 (Credits)	2	必修・選択 (Required / selection)	選択

■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)

心理学実験について体験し、実験の計画立案、統計に関する基礎的な知識を学ぶこと、さらに実験の方法、結果の集計方法や考察の仕方など、レポートのまとめ方およびプレゼンテーションの仕方を学ぶことを目的とする。また実験法、検査法、観察法、調査法の基礎的な事柄を学習する。受講者は各自実験者として実験を行うだけでなく、実験参加者にもなり、各テーマ終了時にはグループ発表およびレポートの提出を行う。グループ学習を行うため、各人の協調性や責任感が要求される。対面授業で実施する。

■ 授業形態・授業の方法 (Class form)

授業形態 (Class form)	講義
授業の方法 (Class method)	講義と演習の両形式で授業を行う。講義では各テーマの内容や演習の進め方の概要について説明する。演習では数名ずつのグループごとに実験を進め、また実験結果についてプレゼンテーションを行う。実験のデータ取得は授業時間外に行われる場合がある。パソコンを使用するので毎回必ず持参すること。また、グループワークを行うので協調性や責任感が要求され、基本的に毎回出席することが求められる。

■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)

回数 (Num)	テーマ (Theme)	内容 (Contents)	メディア区分 (Media)
第1回	ガイダンス	この授業の進め方について説明する。	<input type="checkbox"/>
第2回	錯視 (1) 概要解説、計画、課題作成	錯視の実験の背景や実験方法を理解し、課題を作成する。	<input type="checkbox"/>
第3回	錯視 (2) 実験	錯視の実験を実施する。	<input type="checkbox"/>
第4回	錯視 (3) 集計	錯視の実験の結果を集計する。	<input type="checkbox"/>
第5回	錯視 (4) 統計・分析	錯視の実験の結果の統計解析を行い、結果について分析する。	<input type="checkbox"/>
第6回	錯視 (5) 発表、レポート作成	錯視の実験の結果についてグループ発表を行う。レポート作成を行う。	<input type="checkbox"/>
第7回	空書 (1) 概要解説、計画	空書の実験の背景や実験方法を理解し、課題を作成する。	<input type="checkbox"/>
第8回	空書 (2) 実験	空書の実験を実施する。	<input type="checkbox"/>
第9回	空書 (3) 集計	空書の実験の結果を集計する。	<input type="checkbox"/>
第10回	空書 (4) 統計・分析	空書の実験の結果の統計解析を行い、結果について分析する。	<input type="checkbox"/>
第11回	空書 (5) 発表、レポート作成	空書の実験の結果についてグループ発表を行う。レポート作成を行う。	<input type="checkbox"/>
第12回	質問紙調査 (1) 概要解説、計画、実験	質問紙調査法についての概要を理解し、テーマを決定し、ウェブ上にアンケートを作成する。データ取得を行う。	<input type="checkbox"/>
第13回	質問紙調査 (2) 集計	アンケートの結果を集計する。	<input type="checkbox"/>
第14回	質問紙調査 (3) 統計・分析	アンケートの結果について統計を行い、結果について分析する。	<input type="checkbox"/>
第15回	質問紙調査 (4) 発表、レポート作成	アンケートの結果についてグループ発表を行う。レポート作成を行う。	<input type="checkbox"/>

■ 授業時間外学習 (予習・復習) の内容 (Preparation/review details)

授業時間内に作業が終わらない場合には、授業時間外に行う必要がある。例えばデータ取得、集計・統計、文献調査、レポート作成、プレゼン準備などである。(2時間)

■ 課題とフィードバックの方法 (Assignments/feedback)

プレゼンテーションのときに講評を行う他、レポートについて全般的な講評を行う。

■授業の到達目標と評価基準 (Course goals)		
区分 (Division)	DP区分 (DP division)	内容 (DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	問題意識を持った心理学的テーマで実験・調査を実施し、得られたデータから問題の解決策を探求できる。

■成績評価 (Evaluation method)				
筆記試験 (Written exam)	実技試験 (Practical exam)	レポート試験 (Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他 (Other)
			70%	30%
授業内試験等(具体的内容) (Specific contents) 出席および授業貢献度を重視する。また、各テーマごとに提出するレポートやプレゼンテーション資料などによって総合的に評価する。				

■テキスト (Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書 (references books)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1	日本心理学会認定心理士資格認定委員会 (編集) 『認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎』 金子書房	
2		
3		
4		
5		